

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102394		
法人名	医療法人社団 愛寿会		
事業所名	グループホーム あいの街芳川		
所在地	静岡県浜松市南区御給町263番地		
自己評価作成日	令和 元 年 6 月 6 日	評価結果市町村受理日	令和元年8月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様、一人一人に合わせた生活を提供しています。お楽しみ会や外出等、季節を感じて頂けるレクリエーションを職員、入居者様一丸となって実施しています。定期的に研修やカンファレンスを行い、職員間での情報共有をして、きめ細かな支援を心掛けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=2277102394-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 元 年 6 月 21 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者とケアマネジャーは、利用者・家族の意向に沿った支援を日々心掛けています。運営法人は、訪問看護・通所介護なども運営しており、職員の処遇等については、法人本部事務局が対応している。職員のスキルアップにも積極的に支援して、介護福祉士取得のためにスタッフのシフトなどを工夫している。職員間の情報共有のために、申し送りノートや、利用者ごとのケア内容の記録、職員会議議事録など、こまめに記録されている。特に、「生活管理表」は、利用者全員の排泄記録と服薬・水分補給などが時系列で一覧になっていて、職員誰もが記入も簡単で、わかりやすい。施設前には、広い駐車場スペースがあるので、今後更なる地域住民との交流の場としての利用も検討してほしい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に理念の確認をしている。職場会議にて再度、共有し確認をしている。	「思いやる心・ぬくもりの心・支え合う心」という開所当初からの理念が、玄関ホールやスタッフルームに掲示されていて、常に意識している。月1回実施の職場会議にて、都度確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りに参加している。秋祭りには施設に練りに来て頂いたり、地域との交流がある。又、自治会長や民生委員の方に運営推進会議に出席して頂き、情報共有をしている。	利用者が入居前に住んでいた地域の敬老会に参加できるよう、利用者の地域との関わりあいが途絶えないようにしている。近くのフリースクールの生徒が2ヶ月に1回ボランティアに来ている。毎年、自治会の夏祭りに参加したり、中学生の職場体験を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方への認知症についての説明及び介護サービスについての相談に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回、開催してる。入居者様やご家族様も参加して頂き、今後の取り組みに活かしている。	浜松市介護保険課職員、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、利用者家族が参加している。議事録には、問題点等を整理して記載している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールでの連絡があり、研修に参加したり、必要時には連絡を取っている。又、運営推進会議に出席の際、定期報告を行っている。	市担当者とは、常にメール等で連絡を取りあっていて相談や報告を行っている。運営推進会議には、ほぼ毎回出席があり、報告・相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議にて身体拘束委員会を設置。職員にも研修で指導している。玄関の施錠はせず、急な外出時のために連絡が取れる様、玄関に職員が持参できる携帯が常時置いてある。	月1回の本社研修にリーダーが参加し、職員と情報共有している。運営推進会議開催時に身体拘束委員会を行い、議事録は常に職員と共有している。玄関の施錠はしておらず、利用者の急な外出に備え、連絡用の携帯電話を玄関に常備し、職員間で対応している。	

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて職員に伝達している。又、入浴は全職員が日々、交代で行い。全身の確認をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて職員に伝達している。必要時にはご家族様と話し合い、支援できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に説明し、納得していただいた上で署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様の意見・要望については必要時に会議にて話し合いを行う。ご家族様には面会時等に個別での面談を行っている。	利用者・家族の意向は、入居者別に細かく記録されている。家族の来訪時には、ご要望を都度聞くよう声掛け、その内容は申し送りノートに記入し、職員誰もが確認して情報共有できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議での話し合いや別日に各職員に聞き取りを行っており、必要時には事務長に話している。	職員会議では、要望や意見を出し、職員同士の情報共有を図っている。また、日々気づいたことは、「申し送りノート」に記入し、都度PDFにしてメールにて職員全員に配信している。メールで各職員に送られるため、いつでもどこでも確認することができ、振り返りや、伝達漏れ防止に役立っている。	「申し送りノート」をPDFでメール配信して、いつでも見られる状況であるが、既読確認がされていないため情報が共有できているか不明であり、朝ミーティングの場で主な注意点などについて再度確認するとともに、既読確認できる工夫を行って欲しい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を元に施設長との面談を行い、職員一人一人に、目標をもって働ける様、環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修やリーダー研修を受講。外部で行われている研修への積極的な参加をしている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し、他事業所と勉強する機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを必読する。ご本人様の話を傾聴しながら安心した暮らしを提供している。特に入居後しばらくは頻回に話しかけるなどコミュニケーションを密に取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを行っている。入居後の方向性を話し合い、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居者様、ご家族様と話し合い、必要な支援を見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様、一人一人の暮らしに合わせて生活リハビリとして家事等、出来ることを積極的に行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設行事に参加して頂いたり、面会時に日々の様子をお伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時にご本人様の馴染みの物を持参して頂いている。近所のスーパーへ職員と買い物に出かけている。	利用者は、近隣からの入居者が多く、家族友人などの来訪者が多い。自宅にいたころから通っていたスーパーなどへ買い物へ出かけた時、休みの日には家族と外出し、食事を楽しむこともある。	

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様の関係性に留意しながら、職員が間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談を受け付ける準備があることをお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランに沿った介護を実践している。ご本人様の希望の変更があれば都度更新し対応している。	入居者個々の思いに沿うことを心がけ、特に医療的ケアの取り組みついて、医療機関との連携を強化した支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人様・ご家族様よりアセスメントをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録、生活表に日々、記録をしている。出勤前に記録の確認をして、変化を随時把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を設け、話し合いをしている。	「申し送りノート」に、気付いた点や家族の意向について記入し、担当者会議で話し合いをしている。医療的ケアの取り組みとして、医療的ケア指導看護師のもと、訪問看護事業所とも連携したケアプランを作成し、支援を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要時にカンファレンスや担当者会議にて話し合いをしている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者様、ご家族の状況に応じて、自施設以外との連携に取り組むこともある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、自治会長の方と運営推進会議にて現状の報告を共有している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、定期往診がある。緊急時にも連絡を取れる環境を整えている。	特定健診以外に、月に2回定期往診を受け、常に利用者の状況を把握している。入居前かかりつけ医への通院には同行支援で対応している。施設開設時からの協力医療機関が近くにあるため、緊急時でも対応できるように連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師に相談する体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはご家族様・医療機関に早急に情報を提供している。退院計画では医療機関のカンファレンスに参加し、今後の安定した生活を支援できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し、その時点での意向を伺っている。必要時にはご家族様、主治医と話し合いをし、意向に変化があれば都度、意に沿うようにしている。	「看取り介護に関する指針」を入居時に説明し、ご家族の意向も把握している。終末期の入居者には、訪問看護の支援や施設で看取りできる体制を整え、職員間の情報共有もできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修にて指導している。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施している。今後は深夜帯を想定した訓練を実施予定。	入居者・職員用の防災ずきんを用意し、年2回、防災訓練を実施している。訓練の様子は、「あいの街芳川通信」に載せて家族や関係者に周知している。施設前の広い駐車場は、避難スペースとして利用が出来る。災害備蓄品は、50メートルほど離れた法人病院に用意している。	防災備蓄品は施設内に保管し、防災訓練は広い駐車場を利用して近隣住民や自治会と合同で実施することで、いざという時の協力関係の構築に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護を行う際は説明し同意を得て行う。丁寧な言葉を心掛けている。	個人情報保護方針について、職員会議等で情報共有している。 利用者の居室の入室時やトイレの誘導場面では、人格を尊重した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様、一人一人に合わせ、選択できるような声かけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様の、その日の体調に留意した支援を行っている。レクリエーション・体操の声掛けをし、参加は自由となっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合う服装を選択できる声掛けをしている。定期的に訪問理髪を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に2回、お楽しみ会を実施している。ご入居者様と一緒に準備をして食事作りをしている。	月2回お楽しみ会として、準備から食事作りまで、屋食の好きなメニューと一緒に楽しむ工夫をしている。メニューは、餃子・おはぎ・天ぷらそば、お菓子作りなど、相談して決めている。 食事の際には、料理や食材の話、季節の話など、美味しく食べてもらうよう声掛けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を日々記録している。個々に合わせた食事量を提供している。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に合わせた口腔ケアを実施している。状況に合わせて、月2回訪問歯科を利用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合わせた、声掛け・誘導をしている。丁寧な言葉を心掛けている。	「生活管理表」に利用者全員の状況が記載されている。オムツの交換・水の摂取状況・トイレの回数などが、一覧で記載されていて、担当職員の誰もがすぐにわかるように工夫されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬以外の方法を最初に検討し、水分摂取やおやつを工夫している。又、運動を行ったり予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は希望を考慮し合わせている。	週2～3回、利用者の希望に合わせて入浴に対応している。入浴時間は決まっていない。拒否する人には無理強いせず、気持ちよく入浴してもらうよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合わせ、日中でも休憩時間を取って頂いている。室内環境を整え、安眠して頂ける様、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋と照らし合わせて、確認、留意している。更に細かく看護師より注意点を聞き、支援に繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活における家事等の役割を持って頂き、日々の暮らしを充実して過ごして頂ける様、努めている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴やドライブ等行っている。ご入居者様の希望に応じ、ご家族様の協力の元、外出支援をしている。	天気が良い時には散歩に出たり、季節に合わせて花を見にドライブに出掛けている。最近、藤の花を見学に行った。外出の様子は、写真撮影して玄関入口に掲示したり、「あいの街芳川通信」に載せて、家族にも知らせている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際は支払いをご本人様にして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の携帯を使用されたり、希望があれば事務所の電話を貸し出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた花を飾り、フロアにはレクリエーションで作成した作品を展示して四季を感じて頂いている。	お楽しみ会の時には、ユニットが合同で集まり、利用者同士の交流を図っている。玄関やリビングなどに、職員が育てている花(紫陽花)が活けてあり、室内にいても季節がわかるよう、工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブルにてコミュニケーションが取れる環境があり、離れにソファを置くことで、一人で過ごされたり、思い思いに過ごして頂ける環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れている家具や思い出の品を持参して頂いている。	利用者の居室は、入居前から使い慣れている家具等を持参して利用している。利用者自身が作成した趣味の刺繍作品の額を飾っているお部屋もあり、以前の生活を思い出しながら、生活することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の生活に合わせた暮らしを支援できるよう心掛けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102394		
法人名	医療法人社団 愛寿会		
事業所名	グループホーム あいの街芳川		
所在地	静岡県浜松市南区御給町263番地		
自己評価作成日	令和 元 年 6 月 6 日	評価結果市町村受理日	令和元年8月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様、一人一人に合わせた生活を提供しています。お楽しみ会や外出等、季節を感じて頂けるレクリエーションを職員、入居者様一丸となって実施しています。定期的に研修やカンファレンスを行い、職員間での情報共有をして、きめ細かな支援を心掛けています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyvoCd=2277102394-00&ServiceCd=320

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty space for external evaluation comments
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 元 年 6 月 21 日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に理念の確認をしている。職場会議にて再度、共有し確認をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	夏祭りに参加している。秋祭りには施設に練りに来て頂いたり、地域との交流がある。又、自治会長や民生委員の方に運営推進会議に出席して頂き、情報共有をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方への認知症についての説明及び介護サービスについての相談に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回、開催してる。入居者様やご家族様も参加して頂き、今後の取り組みに活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールでの連絡があり。研修に参加したり、必要時には連絡を取っている。又、運営推進会議に出席の際、定期報告を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議にて身体拘束委員会を設置。職員にも研修で指導している。玄関の施錠はせず、急な外出時のために連絡が取れる様、玄関に職員が持参できる携帯が常時置いてある。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて職員に伝達している。又、入浴は全職員が日々、交代で行い。全身の確認をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて職員に伝達している。必要時にはご家族様と話し合い、支援できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に説明し、納得していただいた上で署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様の意見・要望については必要時に会議にて話し合いを行う。ご家族様には面会時等に個別での面談を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議での話し合いや別日に各職員に聞き取りを行っており、必要時には事務長に話している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を元に施設長との面談を行い、職員一人一人に、目標をもって働ける様、環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修やリーダー研修を受講。外部で行われている研修への積極的な参加をしている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し、他事業所と勉強する機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを必読する。ご本人様の話を傾聴しながら安心した暮らしを提供している。特に入居後しばらくは頻回に話しかけるなどコミュニケーションを密に取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを行っている。入居後の方向性を話し合い、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居者様、ご家族様と話し合い、必要な支援を見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様、一人一人の暮らしに合わせて生活リハビリとして家事等、出来ることを積極的に行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設行事に参加して頂いたり、面会時に日々の様子をお伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時にご本人様の馴染みの物を持参して頂いている。近所のスーパーへ職員と買い物に出かけている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様の関係性に留意しながら、職員が間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談を受け付ける準備があることをお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランに沿った介護を実践している。ご本人様の希望の変更があれば都度更新し対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人様・ご家族様よりアセスメントをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録、生活表に日々、記録をしている。出勤前に記録の確認をして、変化を随時把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を設け、話し合いをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要時にカンファレンスや担当者会議にて話し合いをしている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者様、ご家族の状況に応じて、自施設以外との連携に取り組むこともある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、自治会長の方と運営推進会議にて現状の報告を共有している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、定期往診がある。緊急時にも連絡を取れる環境を整えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師に相談する体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはご家族様・医療機関に早急に情報を提供している。退院計画では医療機関のカンファレンスに参加し、今後の安定した生活を支援できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し、その時点での意向を伺っている。必要時にはご家族様、主治医と話し合いをし、意向に変化があれば都度、意に沿うようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修にて指導している。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施している。今後は深夜帯を想定した訓練を実施予定。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護を行う際は説明し同意を得て行う。丁寧な言葉を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様、一人一人に合わせ、選択できるような声かけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様の、その日の体調に留意した支援を行っている。レクリエーション・体操の声掛けをし、参加は自由となっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合う服装を選択できる声掛けをしている。定期的に訪問理髪を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に2回、お楽しみ会を実施している。ご入居者様と一緒に準備をして食事作りをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を日々記録している。個々に合わせた食事量を提供している。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に合わせた口腔ケアを実施している。状況に合わせて、月2回訪問歯科を利用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合わせた、声掛け・誘導をしている。丁寧な言葉を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬以外の方法を最初に検討し、水分摂取やおやつを工夫している。又、運動を行ったり予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は希望を考慮し合わせている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合わせて、日中でも休憩時間を取って頂いている。室内環境を整え、安眠して頂ける様、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋と照らし合わせて、確認、留意している。更に細かく看護師より注意点を聞き、支援に繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活における家事等の役割を持って頂き、日々の暮らしを充実して過ごして頂ける様、努めている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴やドライブ等行っている。ご入居者様の希望に応じ、ご家族様の協力の元、外出支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際は支払いをご本人様にして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の携帯を使用されたり、希望があれば事務所の電話を貸し出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた花を飾り、フロアにはレクリエーションで作成した作品を展示して四季を感じて頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブルにてコミュニケーションが取れる環境があり、離れにソファを置くことで、一人で過ごされたり、思い思いに過ごして頂ける環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れている家具や思い出の品を持参して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の生活に合わせた暮らしを支援できるよう心掛けている。		

目標達成計画

作成日: 令和 元 年 7 月 29 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	「申し送りノート」を各自、自主的に読むことになっている。全員共有している確認は本人のサインのみ。	情報共有を書面だけでなく、言葉で伝える。	本人のサインは継続し、毎朝のミーティングを行う。	1ヶ月
2	35	災害備蓄品の保管場所について	施設に備蓄品を保管する。	本部から施設へ、備蓄品の移動をする。	1ヶ月
3	35	防災訓練の実施方法について	自治会との交流関係をより強くする。	消防に防災訓練の協力を仰ぎ、自治体や近隣住民へ参加をお願いする。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。